

昭和の人物伝(8)

根岸 謙之助

—文学と民俗学の研究に邁進—

『利根沼田の人物伝』(高山正著・上毛新聞社)に掲載された、村にゆかりのある人物の中から今回は根岸謙之助を紹介する。



根岸 謙之助

根岸謙之助は大正十四年(1925)、貝野瀬に生まれ、家業の農業を手伝いながら、県立沼田中学校(現在の沼田高校)へ進学しました。その後、國學院大學予科で文学を専攻し、在学中に軍隊に召集されましたが、二十五歳で卒業。卒業後は、前橋工業高校の国語教師となり、群馬県高等学校教職員組合書記次長や副執行委員長を務めました。

多忙な時期でも、学生時代から始めた万葉集を中心とした国文学の研究を怠ることなく続け、『伊香保の嶺呂万葉集上野国歌』、『東歌の世界』を研究成果と

して出版しました。そして、万葉集の講読会を昭和四十一年から二十八年間休まず続けました。

また、文学の創作活動に関心を持つ人たち向けの雑誌を目指し、同人誌「ちよぼくれ」を発刊。このように万葉集の研究者、文学者でありながら、民俗学にもその研究の目は注がれていました。

仕事と研究の両立に苦悩した時期もありましたが、研究に専念できる群馬大学医療技術短期大学の助教授に就任。しつくと遊び、職人の技術伝承に関する民族研究を活発に行いました。

昭和六十三年に刊行した『医療民族学論』では第三十回柳田邦男賞を受賞しました。豊富な民族資料から新たな視点で医療民族学という新しい学問を体系化した。平成三年、群馬大学を定年退官後は、上武大学商学部教授に就任し、商学部の科目に民族学を取り入れました。

平成七年三月、多くの研究成果や著書を残し、七十歳でその生涯を閉じます。蔵書五三〇冊は群馬県立図書館へ寄贈され、根岸文庫として現在も研究者たちの貴重な資料となっています。

参考 利根沼田の人物伝
昭和村ボランティアガイドの会

事務局長 島田 民夫



地域包括支援センターだより

地域にとって大切な場所、サロンの活性化を目指して!

～第4回きずなサポーター会議(10月27日)の報告～

今回の会議では、ぬまたとね医療・介護連携相談室の岡島真実室長に「サポーターに大切なこと」の講義・演習をしていただきました。研修の後半では「もしものための話し合い(もしバナ)」をする、もしバナゲームを実施し、人生において大切な「価値観」や自分自身の「あり方」などの気付きについて、33名のきずなサポーター

がゲームを通して学びました。

参加したきずなサポーターの皆さんからは「楽しみながら自分を見つめ直す良い機会になった」「人生の最期について考えることができ有意義な時間だった」「ひとり暮らしになって日々思っていることの道しるべになったように思う」などの感想が聞かれました。



▲参加者同士で話し合い



▲もしバナゲーム後に振り返り



問合せ 地域包括支援センター ☎20-1126

